

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人 十連会		
事業所名	グループホーム じゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三瀧町西牟田6557番地89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 5 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっているところでもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切にしています。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も法人内部研修、外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら住まいは変わっても地域で自分らしく暮らすことを大切に取組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

十連公園の一角にあり四季を感じる景色を一望出来る。清導池もあり池から太陽の輝きリビングに反射される。平屋の2ユニットで事業所は建設されており天窓もあり自然光を取り入れ明るい雰囲気である。桜並木もあり町内会清掃活動に職員も参加し並木道は整備されている。法人の母体は病院で訪問医として対応が出来る。職員配置では看護職員を配置し医療的な相談も受ける事もでき、夜間帯の対応はオンコール対応とし主治医との医療連携も構築されている。感染症蔓延予防対策では、事業所職員全員の意見をまとめ感染対策にも力を入れている。チームケアを重視し各ユニット・各スタッフが役割を持って支援を行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域の皆様とあるがままの暮らしを】を理念とし地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識し玄関先に理念をあげ実践に向け努力している。	全職員の意見を聞き、具体的な理念に変えて朝礼で唱和している。ホール内で見やすい場所に掲示して常に関員で考えた事業所理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(誕生会・敬老会・夏祭り・清掃)に参加。また中学生の職場体験学習・保育園児との交流などを行ったり、法人主催の春祭りを行い地域との交流を行ってきた。ここ一年はコロナ禍にあり、地域運営推進会議にて情報交換を行っている。	コロナ禍に置いて、対面で近隣とお付き合いは現在行ってはいない。事業所職員は地域の清掃活動等に参加し地域との関係を深めている。法人主催の「春祭り」は中止となっているがいつでも地域を迎えて交流が出来る様に準備は出来ている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、コロナ禍における介護予防の対策等を発信していく予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員との文書での情報交換を行っている。	開催は2ヶ月に1度行っている。今年は事業所の活動内容・入居状況・事故報告・身体拘束状況・前回の運営推進会議議事録を書面にして郵送で運営推進委員に配布している。配布する際にアンケートを同封し委員からの意見を集計している。運営推進の資料は全利用者ご家族にも郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。	介護予防研修会の開催要請など市町村からの協力要請もある。日頃は電話・メール・FAXを利用して相談を行っている。市町村との窓口は管理者が受け対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。身体拘束廃止委員会を作り地域運営推進会議にて身体拘束を行わないための活動の報告や事例の報告を行っている。	身体拘束マニュアルを作成し2ヶ月に1度事業所内の活動状況を当てはめて研修を行っている。事業所内での事例を使うなど身体拘束をしないケアについて積極的に取り組んでいる。研修報告書は運営推進会議で報告し情報は共有出来ている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	成年後見制度を利用されている方もあり関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。外部・内部研修にも参加し学ぶ機会を作っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	初回相談時から家族の希望を伺い本人同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。	webを活用し必要に応じて研修を実施している。参加出来なかった職員に対しては伝達研修として資料を配布するなど全職員に周知する様に工夫をしている。見学者については久留米成年後見センターの案内も行い、利用者で成年後見人制度を活用したいと相談もある等、希望に応じて対応している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者には、常に意見を聞くようにしている。ご家族とのコミュニケーションを心掛け意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。介護相談員の訪問の受け入れも行いご意見を頂いている。玄関入口にご意見箱を設置している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、常に意見を聞くようにしている。ご家族とのコミュニケーションを心掛け意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。介護相談員の訪問の受け入れも行いご意見を頂いている。玄関入口にご意見箱を設置している。	意見箱は各ユニットの玄関に設置している。利用者の身体・生活状況に変化がある場合は随時、家族に連絡を取る様にしている。事業所内の生活状況・活動状況写真を毎月郵送している。ご家族から頂いた手紙などは職員が代読し家族との関係作りにかを入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。	コロナ禍であり集まったの会議は極力行わず、状況に応じて書面で伝達を行っている。集まる際は法人の総務課も参加し職員の意見を伺い運営に取り入れている。コロナウイルス感染予防策について必要な備品なども職員間で話し合い決定した備品を活用し感染対策を構築している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格(介護支援専門員・介護福祉士)を取ったり外部研修を希望する向上心を持っている。結婚・出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない、面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるように支援している。	定年はあるが、就業希望に応じて再雇用できる。年齢や性別に関わらず採用している。スキルアップの為に勤務調整のサポート等の相談も受ける。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人が契約している研修サイトにて人権研修を行い、同じ内容の物を全職員が視聴し学習している。	法人内の年間研修計画では年に1度研修計画がある。事業所内ではグループホーム勉強会においてwebを利用して研修を行っている。参加出来ない職員については後日webを鑑賞するなど伝達研修で人権教育・啓発活動の取り組みを理解している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取得できるようにまた研修が受けられるように機会を作っている。新たな資格取得の為に勤務の調整等支援を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡嫌悪グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また地域のグループホームの推進会議に参加しお互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し情報収集を行い安心できる環境を作っている。二人だけの時間を作り個別対応や本人の思いをしっかりと聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかり面会時に把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームは、もちろん各サービスの説明も行っている。現在グループホーム内の見学が出来ないのでパンフレットや写真等で説明を行っている。希望があれば他のサービスへの橋渡しも行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという考えの基本を大事にしている。出来ない部分は、手伝い得意分野は、腕をふるっていただいたり教えて頂いたり共に支え合う一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。現在面会が行えない状況なので、普段の生活の状況や行事の様子などを写真としてご家族に郵送している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会が行えない状況なので、ご家族との電話での対応、ご家族への年賀状などなじみの方との関係も途切れないように支援している。	面会・外出が制限されているが、必要に応じ電話を活用して家族との会話を楽しめる時間帯を作っている。ユニット間で交流がある事から顔なじみの関係作りが出来ている。新年の年賀状は本人のコメントを入れて投函しご家族から喜ばれている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いてきた人間関係は、尊重し、仲の良いご利用者同士、一緒にお茶を飲んだりお話出来るようにまた孤立しないようにスタッフも一緒に輪の中に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもその生活状況を聞いたり、中には、様子を報告に来られたりする方もありいつでも相談にのりますと説明することもある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。	職員は利用者の思いや希望を把握するため、日常的に利用者につったり接することを心がけている。また利用者の些細な言動からも気持ちの理解に努め、他職員や家族と共有することで、利用者の思いに沿った支援提供が出来、精神的に落ち着かれた事例もある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類など面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話をさせて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送り記録、個人記録で共用できるようにしている、生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種と検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。	介護計画は利用者や家族の意向を基に、担当職員がアセスメントし、医療関係者等の意見を参考に計画作成担当者が立案する。6ヶ月毎に見直しを行っているが、利用者の身体の状況以外にも、その時の各利用者の心地良い生活方法などを含め、チームで検討している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為日々の変化がカンファレンス・モニタリングに活かされよりよいケアが提供出来るようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全でありご希望により看取り支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や買物外出を通じ近所の方々より声掛け頂いている。地域行事等にも参加し地域の方々とも交流を図ってきたが現在コロナ禍で地域運営推進会議での情報子交換を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じてかかりつけ医と連携を行っている。	利用者と家族の希望でかかりつけ医への支援をしている。同法人の医療機関以外へ受診する際には職員もしくは家族が同行し、適切な受診ができるようにしている。処方の変更や必要な情報は電話で家族に報告し、情報の共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設医療院との協力体制も確保している。	事業所には複数名の看護師がおり、行き届いた看取りができる体制となっている。事業所の方針は「重度化した場合の対応に関する指針」「看取り同意書」として明文化されており、利用開始時及び必要に応じて利用者家族に説明し、同意を得ている。重度化した時や終末期にはチームで繰り返し話し合い、情報の共有して支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るよう酸素や吸引器を常備している。また対応マニュアルも整備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に(ADE・心配蘇生法)使用法についても定期的に行い学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけしている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。	事業所は火災、地震、風水害に対応したマニュアルを準備している。事業所独自の避難訓練は、夜間想定を含め年に2回行っている。火元や避難経路を変えた訓練を行い、消防署からも適宜指導を受けている。また法人全体として他部署からの協力体制も整備されており、非常用備蓄品の確保もある。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応、声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度不愉快にさせないよう言葉かけなど特に心掛けている。	利用者のプライバシー尊重を支援するため、管理者は職員への個別指導の他、グループホーム勉強会でも事例を取り上げ、職員の意識高揚に努めている。プライバシーの保護、個人情報の取扱いに関しては、マニュアル化されており、家族にも説明が行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし、本音や希望を言える困気を作ること、スタッフにわがまを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切にし、ご家族とも話をしながら衣類等の持ち込みをお願いしている。外出や誕生日等特別な日には職員と一緒に衣類を選んだりしておしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態や食欲がでる色彩にも気を使っている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。	職員は利用者の嗜好を把握し、希望を聞き献立を立てている。また食材の調達から調理までを行うことにしている。利用者と一緒に準備し、匂いを感じてもらうことなどで、食事が利用者にとって一層楽しみとなっている。刻み食や粥食などにも対応しており、おやつも手作りしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時には口に合う別メニューを用意したり飲み物を用意し確保している。ミキサーやトロミ又補助食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ない方には最終に仕上げを行い清潔保持に努めている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受け入れ状態にある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。	職員は各利用者の排泄のサインを把握し、排泄表で確認もしながら可能な限りトイレでの排泄の自立支援を行っている。尿意がない利用者にも自然な誘導となるよう、さりげない声かけや介助をしている。これら情報はカンファレンスで共有している。また、オムツやパット類は状況に合わせて種類を見直し、家族の了承を得て変更している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を観察しながら入浴支援を行っている。季節毎に入浴剤、バラ湯、柚子湯等に楽しんで入浴して頂いている。コミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時などには臨機応変に対応している。	入浴は週3日を原則としている。また職員は脱衣場を温めたり、利用者の入浴習慣を尊重するなど、利用者が心地よく入浴できるよう努めている。入浴拒否の利用者には、まず体調面をまず考慮した上で、声掛けのタイミングを図ったり、足浴や清拭も取り入れるなどの配慮をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レクや散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は本人希望で緑茶、コーヒー、紅茶等セレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近郊の公園へ季節を楽しむように外出を行っている。季節ごとの花を見に行ったり、外食等を計画し外に出る機会を作っている。	天気が良ければ、事業所周りの散歩を週に2～3日行っている。また四季折々に季節の花の鑑賞を兼ねた外出の機会を設けている。更に家族の協力を得て、外食やドライブ出かけ、利用者の思いを汲んだ自宅への外出支援も行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いているバスハイク、外食時には自分で支払いされる方もある。買物の希望があれば個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方ではなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは(本人の写真入りで)ホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り窓から外を眺めることで、季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	明かり窓がある広々としたリビングには、テレビやソファ、季節の花々が置かれ、壁には絵画や利用者の作品が飾られるなど、利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫されている。またトイレや風呂、洗面台などは、利用者が安全に使用できるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファ、和室を準備し入居者同士で寄り添い談笑したり、一人で座ってのんびりできる空間を大切にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。	居室には利用者が心地よく過ごせるように、収納棚やハンガーラックの他、仏壇などの家具や化粧品や小物も持ち込まれている。また壁には利用者が好むカレンダーや家族写真が貼ってあり、その人らしさを感じられる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行い全面バリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLの変化に合わせて検討している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域の皆様とあるがままの暮らしを】 玄関に掲示し朝礼でも毎朝唱和している。 地域でのなじみの関係を継続したまま生活していただきたいと思い日々支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(誕生会・敬老会・夏祭り・清掃)に参加。また中学生の職場体験学習・保育園児との交流などを行ったり、法人主催の春祭りをを行い地域との交流を行ってきた。ここ一年はコロナ禍にあり、地域運営推進会議にて情報交換を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、コロナ禍における介護予防の対策等を発信していく予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員との文書での情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。検討事例があればすぐに検討会を開催している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を受講したり職員のストレスチェックを実施し心の変化に早期対応できるように努めメディアでの情報も共有し防止意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられ関係機関の方と連携できている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議において説明したりして制度の周知を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から家族の希望を伺いまず本人さんと一緒に見学に来て頂いている。入居時に、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の声に耳を傾けている。家族にはまめに連絡を入れるようにし状態報告を行うとともに要望がないか確認している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	負担の少ないシフト割を心掛けて作成したり普段の話からも要望、意見を吸い上げるようにしている。職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たって国籍、性別は制限せず介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行い得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるように支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体の職員を対象に人権学習が開催され全職員に意識付けが行われている。 権利擁護や虐待防止なども研修として実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。長期間の研修や資格取得のための勤務調整も柔軟に行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会に加盟し研修で名刺交換を行い情報交換を行いサービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できる環境作りの為ゆっくり話す時間を作り本人の思いをしっかりと聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望したいことや困っていることをしっかりと把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が望む支援を入居をいう形にこだわらず法人内の他のサービスや他事業所のサービスなど提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという考えを基本に、共に笑い、考え、時には怒られながら日々を送っている。できることはお願いし、できないことは一緒にするよう心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係性を見ながら普段の様子や出来事を伝えている。昔の話を聞くこともある。また毎月写真入りのお便りを作成し送っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出が制限されているなか入居者様同士が元々の知り合いだったりしておりなじみの関係を継続できている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースを活用し会話の場を作っている。一人が好きの方も閉じこもりにならないよう他者との距離を保てるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に移動の際はご本人の情報をしっかりつたえ移動後は面会に行ったり状態を聞いたりしている。中には様子を報告に来られたりする方もおられ、いつでも相談にのりますと声掛けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中で確認しながら生活支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送りノート、個人記録で共用できるようにしている、生活の質の向上を目指し日々の変化の記録を大切にしている。毎月カンファレンスを実施している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種で検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録しており日々の変化をカンファレンス・モニタリングにつなげ、よいケアが提供出来るように計画している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おやつ作りや焼肉会、カラオケ、塗り絵などやりたいことが出来るように準備している。人員が必要なものは職員を多く配置し安全に実施できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や外出を通じご近所の方々より声掛け頂いている。地域の祭りや公民館での行事にも参加し地域の方々とも交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じたかかりつけ医を選ぶことができる。訪問歯科や他科受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤で配置しているのでバイタルや食事量、状態をすぐに報告でき迅速に対応できる体制にある。普段からコミュニケーションが取れている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院中には、訪問し情報交換を行い退院や退院後についての話をするようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るようマニュアルを整備し酸素ボンベや吸引器、AEDを準備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に(ADE・心配蘇生法)の定期的学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応、声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度不愉快にさせないよう言葉かけなど特に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし、本音や希望を言える雰囲気を作ることで、スタッフにわがままを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切にし、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も、家族の思いを大切しスタッフがやっている。外出や誕生日等特別な日にはおしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態で提供している。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。おやつ作りも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、摂取量が少ない方には別メニューを用意したり好みの物を用意している。ミキサーやトロミ剤、高カロリー食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ない方には仕上げを行い清潔保持に努めている。歯科医の訪問指導をお願いしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。毎日入浴は可能だが2日に1回は入っていただくよう促している。コミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時など臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等の情報がわかるよう統一した管理ができています		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は緑茶、コーヒー、紅茶、ジュース等希望に応じて提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の公園へ外出し季節を感じていただいている。本人希望にて買物支援も行っている。ご近所の方からお花を頂くこともある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いている。買物の希望があれば代行したり個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方ではなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは本人の写真入りで)作成したりホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節に合わせた作品を飾るようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。整理整頓に心掛け移動がスムーズにできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファ、和室があり仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。テラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用出来るようにしている。食卓も分割しており自分の時間を過ごすことができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行なっている。廊下には手すりを設置し車椅子でも安全に移動できるように十分なスペースを確保している。トイレやお風呂も出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLに合わせ活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		